



館長 芦田 弘逸

明石公園の‘クスノキ’
[撮影 2004 年 7 月]

兵庫県立図書館は、本年 10 月 1 日で、開館 30 周年を迎えます。

この間、数多くの方々のご理解とご支援賜りましたことに対し深く感謝申し上げます。

当館は、緑豊かな県立明石公園の一角に位置しています。春は桜に彩られ、夏は蝉の演奏会、秋は紅葉と菊花、そして、冬のお堀には渡り鳥(鴨)たちが羽を休めています。ここでは一年を通して四季折々の風景を楽しむことができます。当館を利用される方からは、「豊かな自然に囲まれ、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと本に親しむことができる。」との声を多くいただいています。

当館は、市町立図書館が提供困難な専門・学術書等を中心に収集し、市町立図書館を通して県民の皆様にサービスする方式、いわゆる“図書館の図書館”としての位置づけで開設され、市町立図書館への支援に努めてまいりました。しかし、平成 13 年 11 月、個人貸出の開始を皮切りに、子ども読書活動(ひょうご“本だいすきっ子”プラン事業)の推進、図書館協議会の公開と委員の一般公募、図書館ボランティア活動の開始、図書館利活用講座(オープン・ライブラリー)の実施、インターネット・サービスの充実等々、県民への直接サービスの拡充を図っているところです。

当館のスローガンは『あすをひらく心ゆたかな人づくり 県民のくらしに役立つ図書館づくり』であります。開館 30 年という節目の年を迎え、今一度この言葉の意味をかみしめつつ原点に立ちかえり、職員一丸となって「図書館と県民双方から愛される図書館」をめざし、一層の努力を続けてまいります。今後とも当館に対し、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

「文化を支えるものは誰か」

- 著作権・公貸権と図書館 -

「生涯学習社会」の到来に合わせて兵庫県立図書館においても「ひょうご図書館情報ネットワーク」の構築、「個人貸出の開始」等様々な取り組みを実施しています。

このような取り組みの中において、最近の新聞やテレビ等のニュースで気になる報道があります。

それは「図書館で大量の本を無料で貸し出しするので、著者や出版社、書店が不利益を被っている」という趣旨の「著作権・公貸権」に係わる＜著作権者＞側の声です。

一般のNHK総合テレビにおいて、ベストセラーを大量に図書館が貸出しする問題をとりあげた番組*1が放映されましたし、新聞等においても同様の趣旨の記事が目につきます。



兵庫県立図書館協議会
会長 藤井 千年

図書館は読書人口の裾野を拡げる

このような論調から受ける印象は、「まだまだ日本では図書館の本質が理解されていない」ということです。図書館を出版業界不況の元凶のように主張している人達は、大きな誤謬の上に論を立てていると思うのです。それは「もし、図書館が無ければ年間約5億冊の図書が売れる」*2という幻想です。

私は永年図書館に居て実感しているのですが、もし近くに図書館が無ければ、そして無料で貸出しが受けられなかったら、図書館へ来るほとんどの人達は本を手にはすることは無かったのではないかと思うのです。子どもたちの多くは、図書館で選ばれた第一級の絵本やよみものに出会い、そこから得たものの考え方を豊かにふくらませて、本の楽しさ・本の有用性を体で感得して成長するのです。子どもの頃に感動した本は生涯手元に置いておきたいものです。家庭の主婦でも、ビジネスマンでもたくさんの本に接する中で、本当に手元に置くべき本に出会い、見つけ出して書店で求めるのです。

図書館のすぐ近くで営業していた書店さんの主人が、私にこんなことを話してくれました。「図書館ができたお前の店はずぶれるぞと仲間から言われてびくびくしていましたが、最近では売りたい本を売ってご飯を食べさせて貰っています」と。図書館が近くに出来てからは、実用書や子どもの絵本でも、しっかりした骨のある本がよく売れるようになったということです。「図書館は文化の浄化槽」の機能を持っているのです。図書館ができることによって、今まで本などと縁の無かったような人達が本を読むようになり、本から生活の知恵を得る知識「旨味」を知ることになるのです。

「限られたパイを奪い合うような」貧しい発想から脱すべきだと思います。

図書館と出版業界は共存共栄できる

日本においてはまだまだ図書館が占める図書の売り上げのシェアは低いのですが、「ポストの数ほど図書館」がある先進諸国においては、「図書館で購入するような本を出版すれば、採算がとれる」と言われています。著作者も出版社も安定したマーケットが確立していれば、安心して良い図書を作成することができます。公立図書館は必ず地元の書店から図書を購入しますから書店も繁栄します。

こうしたことを広く知らしめていく県立図書館の今後果たすべき責任は重いと思います。

(元 尼崎市立中央図書館長 ふじい ちとし)

*1 NHK総合テレビ「クローズアップ現代」2002.11.7放映

*2 全図書館の貸出冊数「図書館年鑑」等による。

新たなはじまり

～ 県立図書館
開館 30 周年に寄せて～



兵庫県教育長 武田政義

兵庫県立図書館が、開館 30 周年を迎えたことを、みなさまとともに、心からお祝いしたいと思います。

県立図書館は、県民のみなさまの期待を担い、昭和 49 年 10 月に明石公園に建設されました。地上 3 階、地下 1 階建て、煉瓦造りの外観は、多くの県民から親しまれ、利用されてきました。開館以来、当時から注目されていた調査相談（レファレンス）サービスと市町立図書館への図書資料等の貸出サービスに主眼を置いた運営方針のもと、生涯学習拠点施設として整備充実に努めています。

現在、子どもの「読書離れ」や「活字離れ」が以前より増して指摘されています。こうした状況を踏まえ、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成 13 年 12 月に公布・施行されました。県教育委員会におきましては、本年 3 月に「ひょうご子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進や環境の整備・充実に努めるため、学校・図書館・図書館ボランティアグループとの連携を積極的に進めています。

これに先駆け県立図書館では、平成 14 年度から「ひょうご“本だいすきっ子”プラン」を展開し、子どもと本をむすぶ活動を推進しています。この取り組みは、県内の図書館関係者や、読書グループなどからも高く評価されています。

生涯学習時代を迎え、県民の自主的な学習を支援する施設として県立図書館には、これまで以上に大きな期待が寄せられています。

「知の世紀」と言われる 21 世紀、県立図書館が県域図書館の中核施設として、さらには生涯学習施設の要として、ますます躍進することを祈念し、お祝いのごことばといたします。

兵庫県立図書館

開館 30 周年祝辞



兵庫県議会 文教常任委員会委員長
田中あきひろ

兵庫県立図書館が昭和 49 年開館以来、県下図書館を支援する「図書館の図書館」としての役割を担いつつ、県下の図書館の振興に深く関わられ、ここに 30 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

新しい 21 世紀を迎えて 3 年が経過し、「成長」から「成熟」への時代転換のなかで、少子高齢化や情報化のさらなる進展など、社会情勢は大きく変化しようとしています。

今兵庫県では、「美しい“兵庫”をめざすこころ豊かな人づくり」を基調として、県民すべてがかかわる教育をめざし、地域の教育力の向上、個性や能力を伸ばす教育の推進、新しい世紀を担う人づくりなど、兵庫らしい教育の推進に取り組んでいるところです。

県立図書館にあっては、生涯学習のための情報拠点施設としての役割を担ってこられました。今後県民が主体的に活動し、協力しあう社会の実現に向けて、より一層重要な役割を担う必要があると考えられます。子どものころからの読書の重要性から、平成 13 年 12 月施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」に呼応し、子どもの読書離れ、活字離れに対して平成 14 年から「ひょうご“本だいすきっ子”プラン」事業の展開により子ども読書活動への支援を強化されるなど、その時機を得た取り組みに対し敬意を表します。

阪神・淡路大震災から 10 周年を迎えようとする今、兵庫県のさらなる発展を期するためには、今後ますます、県民自らが生涯に亘る“学び”を通して社会との関わりの中で自己実現に取り組む姿勢が強く求められます。その中で、図書館の果たす役割が期待されています。

県議会といたしましても、こうした県民の皆様の努力に応え、市町合併が進む中で、新しい時代に対応した自律・分権型の行財政システムの確立など、県政をめぐる様々な動きに目を配りながら、県民の皆様の声を県政に反映させてまいりたいと考えます。

県立図書館が、30 年の歩みを礎として、新たな課題に挑戦しながら、真に県民に愛され、信頼される図書館として、今後さらなる発展を続けられますことを、心から祈念するところです。

県立図書館の

図書館サービス

“30年の軌跡”



社会教育課長 西條恒美

兵庫県立図書館が30周年を迎えましたことを心からお祝い申し上げます。

県立図書館は、昭和49年に開館して以来、県民の教育と文化の発展を図るため、市町の図書館を支援する「図書館の図書館」として次の3つの役割

県内公共図書館における資料相互貸借や職員研修など「市町図書館への支援協力業務」
県民や図書館等からの質問に対するレファレンスなど「資料・情報の迅速・的確な提供」
学術的・専門的図書や兵庫県に関する郷土・行政資料等の収集など「図書館資料の整備・充実」

を基本として、県民に対する直接サービスはもとより、県下の市町立図書館への協力・支援を通じて、生涯学習の振興を目指してきました。この間、多くの県民の皆様にご利用いただき、先月、延べ200万人の来館者を達成しました。

近年の取り組みとしては、平成11年度に新コンピュータシステムによる「ひょうご図書館情報ネットワーク」の運用を開始し、平成13年度からは来館者への直接貸出を始め、また、平成14年度からは、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、子どもの自主的な読書活動を推進するため、「ひょうご“本だいすきっ子”プラン」事業を展開するなど、意欲的に図書館サービスに努めています。こうした図書館の歩みは、多くの方々から高い評価を頂いています。

これも、ひとえに館長をはじめ職員の皆様方の努力の賜物と敬意を表する次第です。

開館30周年という記念すべき節目の年を契機とし、これまでの成果を踏まえて、今後、県下の図書館振興、生涯学習支援などを通して、県民サービスをより一層充実し、多くの県民の皆様信頼される図書館となりますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

新たな30年

に向けて



神戸市立中央図書館長 伊川 一男

兵庫県立図書館が開館30周年を迎えられましたことに、心からお喜びを申し上げます

兵庫県立図書館が設立された昭和49年は、神戸市立図書館にとっても、新たな時代の風が吹き始めた時期でした。それは、「中小都市における公共図書館の運営」（昭和38年）や「市民の図書館」（昭和45年）に示された、利用者の資料要求に応える公共図書館の新しい考え方を基礎とし、図書館を市民の身近に置き、市内全域にサービス網をはりめぐらそうとするものでした。中央図書館は地域の図書館をバックアップすることで全域サービスを実現し、また県立図書館は県下の図書館等を支援することにより、県全域への図書館サービスの提供が期待されることになりました。この間、神戸市では昭和55年に新中央図書館が完成し、以後一区一館の実現に向けて地域図書館の新設・移転が相次ぎました。一方、県立図書館は研修事業や協力貸出、レファレンス等を実施することで、県下の図書館の振興に大きな役割を果たしてこられました。協力貸出については、従来は冊子目録で検索するか、直接県立図書館へ問い合わせで所蔵を確認し申し込みを行っていたものが、現在ではホームページ上の検索機能を使い、即座に対応することが可能になっています。また平成13年度以降、利用者への直接貸出も実施されるようになり、以前に比べよりの確に、またスピーディに利用者の資料要求に応えることができるようになりました。

近年の国際化、情報化、高齢化などの社会変化や、情報メディアの急速な進展の中で図書館にも多様なサービスが求められています。また「地方自治法」の改正に伴う指定管理者制度の検討や「子どもの読書活動の推進に関する法律」の成立に伴う読書活動の具体化など図書館を取り巻く環境は大きく変化しています。今後とも県民全体の図書館サービスの充実に向けて県立図書館の更なる飛躍を期待いたします。



「本郷図書館の思い出」

県立丹波の森公苑長 河合雅雄

図書館という施設があることを、初めて知ったのは小学校の5年の時である。病弱だった私は学校を欠席して家にいることが多かったから、一番慰さめになったのは本である。家にあるめぼしい本は大方読んだので、父が図書館から本を借りてきてくれた。

私が生まれた篠山町（現篠山市）には、本郷大将記念図書館があった。昭和9年に、本郷家が土地を提供し、募金を集めるなどして多紀教育会によって建てられたものだ。篠山は、現在は黒豆等の特産物が有名になり、訪れる人も多いが、かつては「丹波篠山 山家の猿が...」のデカンショ節の通り、山奥の代名詞に使われたものである。その人口わずか5000人余の山奥の町に、当時図書館があったというのは、非常に珍しい例ではないかと思う。

私が初めて図書館へ行ったのは、小学校6年の時である。私は昆虫少年で、昆虫採集に夢中になっていた。小学5年の夏休みの宿題に採集昆虫の大作を提出した。見事な出来だと大変ほめてもらって得意だった。理科教室に保存したいと言われた時は、大切な宝物を取り上げられるような思いでちょっと躊躇したが、何しろ学校の成績はよくなくて賞というものなどもらったことがなかったので、ほめてもらったのはうれしかった。

初めて昆虫図鑑を買ってもらった時は、ふるえるほどうれしかった。三省堂から出された平山修二郎著『原色千種昆虫図譜』である。当時原色の図鑑は珍らしく、大いに珍重した。後年長男に与えたが、大笑いしたことがあった。キテフとオホザウを捕ったと得意げに言うので、そんな昆虫は見たことがない、よほど珍しいものだろうと胸をときめかして採集箱を覗いて、一瞬きょとんとなった。そこにあるのは、どこにでもいる平凡な黄色いチョウではないか。はっと気がついた時、私は思わず吹きだしてしまった。キチョウとオオゾウムシのことだったのだ。この図譜は古いので、旧仮名づかいで書いてある。チョウチョウはテフテフ、象の読みはザウという表記だ。

平山図譜には載ってない甲虫がとれた。調べるために本郷図書館へ行った。初めての図書館、蔵書の多さに圧倒された。その中で農学博士松村松年著『日本昆虫大図鑑』を発見した。背表紙には金色のクワガタムシ（ミヤマクワガタだったか、ノコギリクワガタだったか覚えていない）が刻印されている広辞苑ほどの大部な本である。克明な線画で描かれた昆虫の絵は、カラー写真よりもはるかに本物らしかった。読めない難しい漢字がたくさんあり、よくわからない所も多かったが、何よりもこの大冊が一人の人によって書かれたという偉業に、深い感銘を受けた。

借りて家でじっくり味わおうと、受付へ持って行った。館長らしい威厳のある人に、怖い顔をして「これはだめだ」と一喝された。「厳禁持出」と書いた字が読めないのかと、小馬鹿にされて「返して来い」と追っ払われた。

いつも一緒に昆虫採集している弟と一緒にだったが、これだったら大丈夫と思われるのを貸し出そうと持っていった。貸出票を見て、怖い顔の人はもっと恐ろしい顔になり、甲高い怪鳥のような声で「ハン、ハン、ハン」と叫んで睨みつけた。なんのこともわからず、うろたえた私に「ハン、ハン」とどなりつけて貸出票をつっ返した。ようやく「判」のことだと気がついたが、判など持っているはずがない。這う這うの体で逃げ帰った。

なぜあれほど叱られたのかわからなかった。すっかり図書館の印象を悪くし、子どもの時は二度と足を踏み入れなかった。

本郷図書館は、今は市民センターの一画に本郷図書コーナーとして納まっている。明るく広い図書室で、子どもたちは楽しそうに本を広げている。かつて一人の本好きの少年が図書館ばなれをした出来事を思い出しながら、この快適な図書施設で、多くの子どもたちが読書のよろこびに浸ってくれるのを願っている。

兵庫県立図書館のあゆみ

昭和 4 年(1929)		「兵庫県巡回文庫」発足
昭和 26 年(1951)		ブックモビル「文鳥号」のち昭 37 年「こうのとり号」追加
昭和 44 年(1969)	7 月	県立図書館等調査委員会設置
昭和 45 年(1970)	7 月	県立図書館等建設調査委員会設置
昭和 46 年(1971)	4 月	県立図書館設立準備室設置（神戸市灘区王子町）
昭和 48 年(1973)	7 月	起工
昭和 49 年(1974)	7 月	建物本体工事竣工
	10 月	開館 「兵庫県立図書館の設置及び管理に関する条例」施行 「兵庫県立図書館管理規則」施行 「兵庫県立図書館協議会の組織及び運営に関する規則」公布・施行 中央視聴覚ライブラリー移管（神戸視聴覚ライブラリーから）
昭和 50 年(1975)	3 月	館報『くすの木』創刊
昭和 51 年(1976)	4 月	相互協力室設置 「兵庫県立図書館利用規則」公布・施行
	5 月	協力貸出開始
	8 月	「音楽資料室」開設
昭和 54 年(1979)	4 月	協力課設置
昭和 57 年(1982)	9 月	「ビデオライブラリー室」開設
昭和 58 年(1983)	4 月	託送便貸出開始
昭和 59 年(1984)	10 月	「図書館学資料コーナー」開設
昭和 60 年(1985)	10 月	「図書館まつり - 広げよう本とあなたの世界を - 」開催（5 年間）
昭和 63 年(1988)	7 月	《図書館と私》作文コンクール開始(5 年間)

平成元年(1989)	4月	コンピュータシステム導入、JAPAN MARC 採用
平成5年(1993)	5月	「図書活用県民運動」実施
平成6年(1994)	8月	「外国語資料コーナー」開設
平成7年(1995)	1月	阪神・淡路大震災により被災
	3月	全国からの救援図書を避難所に配布
	4月	被災図書救援事業
	11月	「フェニックス・ライブラリー」開設
平成8年(1996)	10月	巡回業務開始
平成9年(1997)	1月	来館者数‘100万人’突破
平成11年(1999)	3月	新情報提供システム(新コンピュータシステム)導入 BDS(貸出手続き確認装置)設置
	4月	TRC MARC 採用、NDC9 版へ変更
	9月	ひょうご図書館情報ネットワーク(HAL ネット)運行開始
平成12年(2000)	12月	来館者数‘150万人’突破
平成13年(2001)	3月	ひょうご図書館情報ネットワーク(HAL ネット)への神戸市図書館情報 ネットワーク・姫路市立図書館の参加
	9月	図書館協議会の公開開始
	11月	来館者への直接貸出開始
平成14年(2002)	4月	携帯端末機からの蔵書検索開始 ひょうご“本だいすきっ子”プラン事業開始
	6月	図書館ボランティア活動開始
平成15年(2003)	3月	ひょうご図書館情報ネットワーク(HAL ネット)への洲本市立図書館の参加
	3月	図書館協議会に公募委員(2名)を追加委嘱
	6月	緊急雇用創出事業により各種目録・資料データベース作成開始
	7月	県民のための図書館利活用講座(オープン・ライブラリー)開始
平成16年(2004)	3月	直接貸出による貸出冊数‘10万冊’達成
	4月	‘ホームページ’リニューアル
	8月	来館者数‘200万人’突破

- 「兵庫県立図書館 開館 30 周年」お祝いのメッセージ -

開館 30 周年おめでとうございます。

私は、隣接する明石市立図書館に 27 年間勤務しており、長いお付き合いをさせていただいております。それぞれの立場の違いから、意見の対立もありましたが、隣のよしみで多くの皆さんと仲良くさせていただいたことは、私にとって大きな財産となっています。これからも県民に役立つ、また市町図書館を支援していただける図書館として、ますます発展されることをお祈りいたします。

明石市立図書館 楠本昌信

創立 30 周年おめでとうございます。

平成 2 年に図書館主催の「ファミリービデオ教室」を受講以来、視聴覚資料室を利用させて頂き感謝しています。今後も「ビデオ編集講座」をはじめ、視聴覚部門の充実を願い、県民の図書館として発展されることをお祈りいたします。

兵庫ビデオサークル会長 尾崎 正義

開館 30 周年おめでとうございます。

平成 4 年度から 4 年間お世話になりました。「全国で一番遅くできた県立図書館だけど、一冊あたりの単価が一番高いんですよ」と先輩から教えていただきました。映画フィルム、ビデオ編集講座等、映像関係でも先進的な役割を果たしていたことを思い出します。今後のデジタル化にもすばやく対応され、兵庫県立図書館がこれからも情報化社会の中核として発展されるよう、一県民として願っています。

元県立図書館職員 清水賢二

『三十周年に寄せて』

子は「三十にして立つ」と云われていますが、この館のできた頃の三十代の私は好きな学習をすることも無く、ただがむしゃらに仕事をしており、還暦を過ぎ漸く念願叶って図書館で過ごす時間を獲得しました。思えば先達の残した書籍（図書館）は正に智慧の宝庫です。節目を迎え「利用者と共に更なる発展」を期して邁進されんことを祈念致します。

利用者 星野 勲

創立 30 周年、おめでとうございます。

設立準備室は灘区王子町、ハンター邸のそばにあり、開館にむけて私達は資料整備に明け暮れる日々でした。周りの風景や隣の動物園から聞こえてくる動物達の鳴き声に元気づけられたものです。退職後の今は<図書館>のよき利用者です。これからも県民に愛される図書館であり続けて下さい。

元県立図書館職員 柏木朱実

開館 30 周年おめでとうございます。

私は、県立図書館に「縁遠い」「堅苦しい」「暗い」というイメージを持っていましたが、昨年より、ボランティアとして活動することで、身近なものに感じられました。今後も、ほんの少しでも県立図書館の発展にお役に立てることができればいいなあと、常日頃思っています。

図書館ボランティア 司馬麻里

心に残った「兵庫県の歌」

ある日、「...山は青く海は清し 我らが郷土 兵庫県...」と子どもの頃によく歌っていた兵庫県の歌の、全部の歌詞が知りたいと質問があった。兵庫県にはそもそも県歌・県民歌というものがあるのだろうか。早速『兵庫の音楽史』(762.1-57)や『兵庫県史』(216.4-5)、『兵庫県百年史』(216.4-4)を調べるが「兵庫県の歌」の記述は見当たらなかった。

兵庫県の歌と聞いて、まず思い浮かぶのは富田碎花作詞の「兵庫讃歌」である。『兵庫讃歌』(911.56-494)によると、「この兵庫讃歌は兵庫県の企画、委嘱によって、県が兵庫県芸術祭十周年記念行事に際し、1971年秋に上演を予定している県を主題とする交響楽曲(別宮貞雄教授作曲)の楽曲構想参加の1パートとして創作された。」とあり、当館も楽譜『交響詩 兵庫讃歌』(G74-K1)を所蔵している。富田碎花は明治23年に盛岡市で生まれ、『明星』などで名をはせた歌人であり、詩人でもある。大正のはじめに病氣静養のため芦屋を訪れ、以来同地で詩作生活を営んだ。校歌や市・町の歌また社歌や民謡の作詞も50編以上にのぼるといふ。『富田碎花作詞「兵庫讃歌」を読む』(911.5-18)によると、碎花は何十年にもわたり幾度となく県下を隅々まで歩いて、昭和25年に歌集『歌風土記・兵庫県』(911.16-203)をまとめているが、この度の依頼のために再度県下を再確認して回ったそうだ。そうしてできた「兵庫讃歌」は、兵庫県の五つの国(丹波・但馬・摂津・播磨・淡路)それぞれについて朗々と歌い上げられた壮大な詩編である。まさに県を代表する歌と言えるが、質問者から聞いていた歌詞の一部と合致するところはなかった。

インターネットの全国の県民歌を集めたサイトによると、県歌を例規集に載せている県もあるそうだが、1997年の福井県広報課の調査では、兵庫県からは「県民歌の制定なし」と回答しているようだ。では質問の歌は、県の定めたものではなく、当時巷で県の歌として親しまれた歌であったのかもしれない。

また、サイトの兵庫県の欄には、クエスチョンマーク付きながらも「ふるさと兵庫」という歌が紹介されていた。「冬が来る前に」で知られている「紙ふうせん」の後藤悦治郎作詞・作曲である。調べてみると兵庫県青少年本部主催のふるさと青年協力隊の歌らしい。しかし、この

事業は平成2年からということである。質問者は少しご年配のようなので該当せず、また歌詞も違っていた。

そんな時、先の方とはまったく別の地域の方から同じ質問をいただいた。覚えておられる歌詞は異なっていたが、「昭和14年ごろに青年団で歌っていた」という新たな情報を得ることができた。『兵庫県青年団史』(379.3-48)を見てみると、昭和8年1月4日に制定された「兵庫県聯合青年団歌」の歌詞と、お二人の記憶にあった歌詞が(若干の違いはあるものの)ぴったり当てはまった。戦前の青年団は、国家総動員体制のもと、若者を統制指導する組織として、活発な活動を行っていたようだ。そんな状況の中、この歌もよく歌われ、人々の心に郷土の歌として残っていたのだろう。作詞は文学博士中村孝也(なかむら こうや)であるが、『コンサイス日本人名事典』(281-473)等によると、彼は東大教授で江戸時代史が専門だったとのことである。作詞とは縁がないように思われるが、皇太子殿下御誕生奉祝歌や校歌などの作詞も手がけていたようだ。しかしこんな偶然によってレファレンスが解決したことに驚くと同時に、当時の方々には何十年経た後でも思い出せる共通の郷土歌があることを、うらやましく思った。

折しも兵庫県は2006年に「のじぎく兵庫国体」を控え、各方面で準備が進んでいるが、国体開催と言えば、郷土の歌が生まれる機会のひとつである。前回1959年の開催時には「国体讃歌」が作られ、今回はキャンペーン・ソング「はばたん カーニバル」ができあがった。覚えやすく、ホームページからのダウンロード、アレンジも自由で、携帯電話の着メロにもできるという。これを機に、誰もが口ずさめるような新しい県民歌になればと願う。



()内の数字は、当館の資料請求記号です。

(調査相談課 福永瑞穂)

平成 16 年度 県立図書館 研修会一覧

	日程	内容	会場
図書館等職員研修講座	6/18	館長研修	県立図書館
	7/1	相互協力担当者会	県立図書館
	7/16	レファレンス研修(初級)	県立図書館
	12/16	レファレンス研修(中級)	県立図書館
	9/30	インターネット・レファレンス講座(初級)	県立図書館
	12/2	インターネット・レファレンス講座(初級)	県立図書館
	2005/1/20	インターネット・レファレンス講座(中級)	県立図書館
開館30周年記念式典及び講演会	9/16	式典と読書講演会	明石市生涯学習センター
ひょうご“本だいすきっ子”プラン	6/30	「読み聞かせ」実践講座	姫路市立城内図書館
	7/28	「読み聞かせ」実践講座	三田市立図書館
	9/9	「読み聞かせ」実践講座	洲本市立図書館
	10/5	「読み聞かせ」実践講座	和田山町文化会館
	7/6	「ブックトーク」実践講座	篠山市立中央図書館
	7/14	「ブックトーク」実践講座	豊岡市立図書館
	9/2	「ブックトーク」実践講座	滝野町図書館
	10/27	「ブックトーク」実践講座	赤穂市立図書館
	10/25	シンポジウム	県民会館ホール
	2004/7/2 ~ 2005/1/14	子ども読書ボランティア養成講座(6回) - ストーリーテリング初級 -	県立図書館
	2004/9/24 ~ 2005/2/25	子ども読書ボランティア養成講座(6回) - ストーリーテリング中級 -	県立図書館
図書館・公民館職員等研修会	6/23	新任職員研修	県立図書館
	7/15	- 選書から廃棄まで -	加古川総合文化センター
	8/20	- レファレンス -	県立図書館
	9/9	- 図書館経営 -	県立図書館
	10/15	- ビジネス支援 -	県立図書館
	11/18	- 図書館のサービス -	県立図書館
その他の研修会等	5/1	「子ども読書の日」行事 - 図書館探検ワールド -	県立図書館
	7/29	サマースクール	県立図書館
	8/6	オープンライブラリー	県立図書館
	11/26	オープンライブラリー	県立図書館
	2005/3/4	オープンライブラリー	県立図書館
	2005/1/1	- デジタルビデオの「撮影」と「編集」基礎講座 -	県立図書館
	2005/2/1 ~ 4	図書館地区別研修会(近畿地区)	明石市・神戸市

利用案内

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌日も休館)・毎月
16日・国民の祝日・年末年始(12/28 ~ 1/4)・特
別整理期間(春季に2週間以内)

貸出 1人7冊まで、3週間以内

調査相談 調査・研究のための資料調べや利用相談に
応じています。